地域を支える

PTA　社会教育　民生・児童委員　地方議会

議会質疑 解説 59

プログラミング教育

千葉・柏市　平成26年6月18日

推進に向けた考えは

民間団体、企業と連携で

山下 洋輔議員

――子ども向けのプログラミング教育の重要性は、ますます高まっている。プログラミング教育によって、ものづくりに関心を持つ、論理的思考能力が伸びる、自己承認欲求を満たす手段を身に付けられるといった点が期待され、これからの時代には必須なスキルと考えられている。

プログラミング学習の機会を提供していくことを目指し、講師派遣や教員研修や小型コンピュータの貸し出しなどの活動をしている民間団体などと協力し、市内の小・中学校でのプログラミング教育を推進していくことについては、いかがお考えか。

ニーズに合う情報出す

学校教育部長　現在、柏市では、市内20の中学校が技術・家庭科の技術分野で情報に関する技術の学習で、「制御学習プロロボ」というセンサーロボット教材を用いてプログラミング学習を行っている。

この教材は、フローチャートと呼ばれる流れ作業図を使ったプログラミングにより動きを制御し、効果的な実験をすることができる。昨年、第52回全日本中学校技術・家庭科研究大会において、柏市としてこの制御学習プロロボを使用した教育実践を発表、提案して、全国の先生方からも好評を得たという報告を受けている。

指摘の通り、プログラミング教育は児童・生徒に、ものづくりの楽しさを味わわせるだけでなく、実生活における論理的思考力や想像力の向上につながる意味深いものというふうに考えている。

現在、情報教育はもちろん、キャリア教育、健康教育などに企業や民間団体より提供される教育支援プログラムを活用した事業や研究などを取り入れている学校も多くある。

議員よりご提案の学習支援活動についても、中学校技術・家庭科、また小学校段階でも総合的な学習の時間やクラブ活動で、児童・生徒の主体的な学びの育成が可能になると考えている。

今後、機会を捉えて、各学校のニーズに合ったプログラムが選択できるよう広く情報提供してまいりたい。

（議事録を要約）

中学校学習指導要領の「技術・家庭」には、「情報処理の手順を考え、簡単なプログラムが作成できること」とある。中学校はもちろんのこと、小学校でもプログラミングの学習は進めてもらいたいと願っている。

コンピュータのプログラミング技術は、これからの社会を生きていく上で読み書き計算と並ぶ能力になるかもしれない。主体的に行動するために身に付けたい技術だと考える。

柏市には、民間企業の力を得て高校生が主催し、小・中学生がプログラミングを学ぶ教室がある。その発足に関わった経緯もあり、議会で質問した。プログラミングの学習を進める際は、情報関連の企業から力を借りることができる。学校教育でも考えていただきたい。

子どもたちの間にはコンピュータゲームへの根強い人気がある。その思いを生かして、ゲームを作る側に回れるよう手助けをしてはどうか。最近は無料で楽しめるゲームの途中で、課金するものがあり、大金を請求される問題が生まれている。プログラミングの経験があれば、むやみに課金される事態は避けられるだろう。

さらにはプログラミングの才能を見いだし、世界で活躍するプログラマーが生まれるかもしれない。

学校教育でもさらにプログラミングに関する学習を充実させてほしい。

【次回は11月10日付掲載】

体験から学ぼう ○59○

国立阿蘇青少年交流の家（熊本・阿蘇市）

幼児と親が触れ合い

国立阿蘇青少年交流の家では、幼児がいる家族を対象に「阿蘇の大地でいきいき子育て塾」を9月6日（土）～7日（日）の1泊2日で実施した。阿蘇市や周辺市町村から10家族、30人の親子が参加した。

この事業は、豊かな自然の中で動を通して、性、感性を育てについての交換会を通し子育てや自然要性を考え、狙いとしている。

1日目の午森のようちから幸山昌生き、当施設内で、親子で自れる活動を行んの草花や中合い、その感有する活動と

午後は親と親は「NPOライフ熊本」を講師としてークショップ士が交流しなとのコミュニ取り方や心だ。

夜は、親子換会を実施して体験談を話が打ち解けて印象的だった

親子での宿泊。大人は子育てについて学び、子どもは自然の中で感性などを育んだ